

企業 × 祭り

7月には、“夏祭り”を開催。棚田地域振興協議会の「祭りで地域を盛り上げたい」という意志に賛同した地元企業が協力し、様々な出店を展開。住民全体で作る地域に根差した祭りとなっている。



棚田 × 祭り

8月には、急勾配の棚田の傾斜を逆にとり“流しそめん祭り”を開催。近年は、コロナ禍の影響があり、開催を見送っていたが、今年は6年ぶりに開催！

延べ、480人が参加し、大盛況となった。



そば × 祭り

12月には、棚田で育てたそばを使い、“新そば祭り”を開催。

上野の生産組合の方自らが生産からそば打ちまで一貫して作ったそばを味わえるのが醍醐味。



持続可能な地域を目指して

祭 棚田を中心とした祭りを実施してみよう

祭りなどの地域活動に参加したことがきっかけで、上野の魅力にひかれて、毎年のように移住者や新規就農者がいます。地域の草刈り作業に移住者や新規就農者の方も参加してもらい、住民全員が上野の景観や暮らしを守るという意識を共有できているのではないかと感じています。

祭 今後の展望

様々な取り組みを行っていますが、目的は上野に住む人や関係者が元気で楽しく生きることです。そのことが、持続可能な地域につながると考えています。これからも企業や地区外の住民とも連携しながら地域のイベントを続け、元気で楽しく生きられる地域を作っていきたいです。



蔵王上野棚田地域振興協議会
会長 池野 勇男さん

蔵王上野町内会
総代 山口 三千夫さん

棚田に外から風を吹き込む



～棚田を中心とした祭りで地域を活性化～ 蔵王上野の棚田（山形市）

協同で地域を守る

蔵王連峰のふもとに位置する山形市の蔵王上野地区には、「つなぐ棚田遺産」に選定されている「蔵王上野の棚田」がある。
棚田の面積は地区全体の農地の約半分を占める52ha。標高250m以上の高地に農地が位置しており、各水田の高低差が大きいいため、畦畔の草刈りに苦慮してきた。

厳しい営農条件の中でも、地区の農家は農地を守り続けてきた。その中心となっているのが、中山間直接支払交付金制度の集落協定をもとに組織された「蔵王上野棚田地域振興協議会」だ。協議会が中心となり、農家ではない地域住民も巻き込みながら、協働で農道や水路の保全、草刈りなどの維持作業に取り組んでいる。

祭りで元気な地域づくり

協議会の活動のなかで、地区内外の交流を目的として長年続けてきたのが「祭り」だ。地区には、「夏祭り」、「流しそめん祭り」、「新そば祭り」という3つの大きな祭りがある。祭りには、地区内の農家・非農家はもちろんのこと、地区内外の企業や行政など様々な組織が参画し、地域を盛り上げている。

協議会の池野会長は、「将来のことを考えることも大事ですが、今いる人がどれだけ元気でいられるかが、最も重要。祭りが元気な地域づくりの一助になれば良いと考えています」と話してくれた。

上空から見た蔵王上野の棚田

